

校名：岡山大学教育学部附属中学校

所在地：〒703-8281 岡山市中区東山二丁目 13-80 電話番号：086-272-0202

記載日：平成 28 年 5 月 13 日 記載者：梅原信芳 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について

教育目標 「自主自律 豊かな心で たくましく」

- ・生徒の自主自律の精神を育て、心身の健康の増進に努める学校
- ・「21世紀型能力」の育成を目指し、「思考力」を中核として、それを支える「基礎力」、その使い方を方向づける「実践力」が身に付く授業を実践する学校
- ・不易と流行の調和を図り、将来を見通した、模範となる教育課程を研究的に実践する学校
- ・岡大教育学部及び岡大教育学部附属学校園との連携を図り、幼小中一貫教育の実現に向けた実践を行う学校
- ・地域への情報提供や人材提供を積極的に行い、岡山県の教育推進の中心的な役割を果たす学校

貴校の卒業生の活躍状況について

① 追跡調査

活躍状況把握のための追跡調査の形では行っていない。

② 把握状況

同窓会が勤務先を把握している。

③ 活躍状況の具体

1期生(昭和24年卒)から68期生まで、14,500名の卒業生

医学関係：約900名、大学関係：約200名、

会社社長(自営は除く)等：約30名、

弁護士：約10名、

省庁：外務省6名、法務省5名、国土交通省5名、農林水産省4名、防衛省3名、

文部科学省3名、財務省1名、環境省1名、厚生労働省1名、総務省1名

(把握できている人数)

議員等：参議院議員、衆議院議員、岡山県議会議員等で現職もあり

映画監督、音楽家等文化面での活躍

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

① 追跡調査

行っていない。

② 把握状況

把握しているところはない。

③ 状況

校長・教頭等管理職、教育委員会指導主事等となって活躍している教員多数

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

① 生涯にわたって学び続ける主体的な学習者を育成する授業

- ア. 教科の特性を生かした探究的な学習
- イ. 互いに作用し合って学び合う協働学習
- ウ. これからの時代に求められる資質・能力を育てるカリキュラム設計



タブレットで意見交換

電子黒板で学びの共有

グループでの協働学習

② 豊かな体験を積み重ね課題解決を図る教育活動

- ア. 総合的な学習の時間(E R : アースライズ…月の地平線から地球が昇る : 新たな見方・考え方)
 - ・各教科で身に付けた力を関連づけ、学んだことを統合する力を養うことを目標とする。自ら課題設定をし、解決を図るプロジェクト学習を行う。
(例)【文化領域】「和」文化探求プロジェクト, 【環境領域】環境改善プロジェクト
【人権・福祉領域】おもてなしプロジェクト
 - ・社会への社会参画・貢献・寄与をする生徒を育成する。
課題解決のための試行錯誤の中で、自らと自らの生きる現実社会を見つめ直す。
他と共同・協働し、よりよい社会の構築のために参加・参画・貢献・寄与しようとする。

③ 教科の学びを深める教育活動

- ア. 夏季理科巡検(地学分野の学びを深めるフィールドワーク)
H25年度より、夏期休業中に希望者を対象に1泊2日で野外学習を行っている。
【H27年度のコース(岡山北西部方面)】3年間で太平洋から日本海までのコースを巡る
 - ・高梁市成羽美術館, 井倉洞(A), 昭和化学工業岡山工場,
はんだき(オオサンショウウオ)保護センター(B), 岡山大学地球物質科学研究センター
人形峠環境技術センター(C), 妖精の森ガラス美術館



- イ. 小学生 English Recitation Contest(小学生の英語に対する興味と学習意欲の向上)
H24年度より、県内小学校5・6年生を対象に附属中でコンテストを開催している。
本校生徒がコンテストを運営するなどし、地域の英語教育の推進に貢献する。
- ウ. 校内スピーチコンテスト(日頃の学習成果を発揮する場)
県下で行われるコンテストへの出場者を選考し、毎年、優秀な成績を収めている。

④ 地域の教育課題(学力の向上)に対応できる実践的指導力を備えた教員養成

・教師の最も必要な力である学習指導力の育成を軸にした教育実習を行う。

単元構成力まで求める教科の学習指導力の育成

その学習指導力を基盤とした生徒指導力の育成

⑤ 大学・同窓生の支援によるキャリア教育プログラム

・自分の進路を切り拓いていく生徒を育成する。

「自分と役割の関係を見出す」「自分の役割は価値あると感じる」機会を積み重ねる。

そして、生き方を学び、自分の生き方の実現に必要な能力を養う教育を行うプログラム

ア. ボランティア学習 ～ゆうあいセンター出前授業と夏季ボラ参加～

社会の中で自分の力が役にたてることを見出し、自分の可能性について理解を深める

イ. グローバル学習 ～岡大留学生との交流～

自分とは違う世界を知り、違いを理解し受け止めることを経験する。

国際社会で貢献し活躍する意識・意欲を養う。

ウ. 岡山大学訪問 ～医・歯・薬・理・工・教育学部，附属施設の見学と体験学習～

様々な分野について知り、学びの広さと深さを感じ取る。

自分の将来と学習との関連を捉える。

エ. 職業人に学ぶ会 ～附中同窓生等の講演～

働くことの意義とともに、自分らしい生き方を学ぶ。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

1. 先進的な教育課程や指導法を開発し、その情報提供を積極的に行い岡山県の教育推進の中心的な役割を果たす存在

- ・幼小中の一貫教育についての研究成果を提供する教育研究発表会の開催
- ・各教科の魅力ある授業づくりについてその実践成果を提供する教育実践発表会の開催
- ・これからの時代に求められる資質・能力を育むカリキュラム設計の在り方の研究推進

2. 教育研究・研修等を通じて、理想的な中学校教育の実現を目指す教員の育成を図る存在

- ・学校研究推進組織である**主題研究部会**，全員参加の年14回実施の**合同研究日**，教科研究の充実を図る**教科別研究室**などの組織・体制整備
- ・ICT環境の充実など**教育環境整備**(ICT環境を活用できる指導力の向上)

※学校情報化優良校認定申請中(日本教育工学協会 学校情報化診断システム)：文部科学省後援

3. 岡大教育学部のカリキュラムに位置づけられた充実した実習を行い、**地域に求められる教員(地域課題に対応できる実践的指導力を備えた教員)を養成**する存在

- ・教育学部「教員養成コア・カリキュラム」…理論と実践のサイクリックな学びの実現
- ・積み上げ方式による教育実習…1年次から4年次までの段階的な教育実践力の育成
- ・教職実践ポートフォリオ…反省的で創造的な教員の養成

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

日本の教育の進展のためには、絶え間ない教育研究が必要である。**本質的な教育課題の解決のための研究を先進的・継続的に行う学校**として附属学校が存在すると考える。

岡山大学附属学校園は、**地域の教育課題の解決につながる教育研究**を行ってきた。ここ何年間では、今日的課題である「**幼小中の一貫教育の研究**」と、特別支援教育の主要な課題である「**主体的な社会参加をめざす研究**」を行った。その際、「**一貫教育合同委員会**」を組織し、定期的に協議を重ね、教育学部と附属学校園が協働的に研究を進めていった。そして、各教科単位でのカンファレンスを重ねるなどし、**教育学部教官の研究理論に基づいた指導助言等の支援**が附属学校園の教育研究の充実を支えている。また、「**岡山大学教育学部附属学校園地域運営委員会**」を設置し、地域の教育課題とその解決について、教育委員会と意見交換や情報交換を行っている。更に、教育委員会及び公立学校との連携では、**研修会の会場校**として、また**講師を派遣**するなどして、附属学校園の役割を果たしている。

これらを進めるに当たり、一人一人を大切にす学級・学年・学校の雰囲気・風土を築くことを授業づくりの基盤とする。ここでも、学部や附属学校園間の連携を図っている。「**岡山大学教育学部附属学校園特別支援コーディネーターの会**」は、こういった**環境づくりの在り方**について教職員の理解を深めるとともに、個々の子供に12年間のつながりのある支援を行うための附属学校園連携組織の一つである。この組織体制は地域の学校に対して**学校園づくりのモデル**となると考える。

地域の教育課題の解決に寄与する教育研究

グローバル時代を生きる力[21世紀型能力]をはぐくむ教育研究

